

## 研修報告書 No.2

所 属： 大阪医科大学附属病院

研修先： 土佐市立土佐市民病院

このたび地域医療研修として、令和2年8月31日から9月25日までの期間に高知県土佐市にある土佐市民病院や近隣のその他2つの医療機関で研修・見学をさせていただいたので、報告をさせていただきます。

高知県は高齢化が進んでおり、全国で3番目に人口が少ない都道府県です。土佐市は人口約2万5000人で、県庁所在地の高知市から車で30分ほどの距離にある町であり、土佐市民病院は市の中核病院として機能しています。

土佐市民病院での研修ですが、午前中は初診患者の外来診療を担当させていただきました。医療面接・診察を行い、その上で必要となる検査を上級医の先生に相談しながら決定し、結果説明・指導するといった基本的な外来業務に従事しました。普段研修している病院では担当患者の病棟業務が主であり、外来業務をほぼしたことがないため、今回とても貴重な経験となりました。上級医の先生に相談した際には、相談した内容に加えて臨床的に重要で必要なこともあわせて教えていただき、大変お世話になりました。

診察・検査の結果、入院が必要となった場合は入院してもらい、その患者の担当医・主治医の一員となりました。投薬、リハビリ、食事といった治療方針や、退院支援、退院目標などを上級医と相談しながら決定するといった病棟業務を行いました。普段研修先の病院では上級医が方針を決定し、それに追随することが多かったのですが、今回は上級医に確認のもと積極的に自身で方針を考えて決める機会が多く、大変実りある経験となりました。

午後はリハビリテーション回診や、人間ドックの結果説明、病棟業務、超音波検査、手術参加や気管挿管といった麻酔導入など、様々なことを経験させていただきました。人間ドックでの結果説明は今までしたことがなく不安でしたが、指導医の方針のもと、ベテランの看護師さんに支えていただいたおかげで、安心して業務を行えました。超音波検査では、ベテランの技師さんからレクチャーしていただき、その後スタッフの方の協力のもと実際に人体にプローブを当てさせていただきました。手術では、術前の手術麻酔導入でマスク換気、気管挿管を行った後、第二助手として術野に入り、皮膚切開や閉創を担当させていただきました。普段研修している病院であれば麻酔も行った後、術野にも入るといった複数の科を跨ぐようなことはできないため、ここならではの経験となりました。医師として必要なことを多数経験することが出来ました。

院外の医療機関では、土佐市内の開業医の先生の訪問診療業務やクリニックでの外来診療業務を2件見学しました。訪問診療では当然ですがADLが低下しており介護が必要な方しかおらず、普段勤務する大学病院では見慣れない光景だったのと同時に、今後高齢化社会

となる日本の医療をどうしていくべきか、自分がどう考えどう対応していくか、開業医先生と話を交えながら身をもって経験することとなりました。

週末には車で四万十川や室戸岬に行ったり、近隣の仁淀川に行ったり、地元にはない大自然を満喫しました。食事に関しては鯉のタタキを筆頭に海鮮料理が非常に美味しく、店を探すのが毎日楽しくて仕方ありませんでした。中でも心遣いのある女将さんや賑やかでよくしてくれる常連のお客さんがいる店にはよく入り浸り迷惑をおかけしましたが、楽しく毎日を過ごすことができました。

個人的なことにはなりますが、研修時期が研修医 2 年目の 9 月ということで、将来の専攻科を決めなければいけない時期でしたが、当時行きたい専攻科が複数あり、どこに行くべきか決めかねていました。その中で、土佐市民病院での研修中に心を大きく揺さぶられる症例に遭遇し、それをきっかけに将来やりたいことが明確になり、専攻科を決定するに至りました。土佐市民病院で研修していなければ全く別の道を歩んでいた可能性があると考えると、ここが運命の分岐点だったのだなと振り返ってみて思います。

今回、他の地域では味わえない経験を多数積むことができ、本当に実りある研修生活を送ることができました。というのも、高知医療再生機構の方々、土佐市立市民病院の先生方、事務の方やその他スタッフの大勢の方々の支えあってこそできたのだと思います。4 週間という短い時間ではありましたが大変お世話になりました。ありがとうございました。